日本における中国考古学関係文献目録（1998 年）

崎川　隆・吉原道夫

１.本目録は、1998 年１月から 12 月までの間に、日本国内で刊行・発表された中国考古学に関する文献を集成したものである。
２.集成の対象は中国考古学に関するものが主であるが、ほかに東洋史学・美術史学のもので比較的関係すると思われるものも含めた。
３.「単行本・図録など」（単独刊行物）と「論文・翻訳・評論など」（掲載物）の、２項目に大別して収録している。
４.各項目内の文献データは、著者名による 50 音順を原則とする。
５.文献データの収集にあたっては、『史学雑誌』･『東洋史研究』の目録を参考にしたほか、多くの方々のご協力・ご教示を得た。

〈単行本・図録など〉
●朝日新聞社文化企画局文化企画部編『封印された南宋陶磁展』朝日新聞社
●阿辻哲次『中国漢字紀行』大修館書店　あじあブックス 004
●飯島武次『中国周文化考古学研究』同成社
●和泉市久保惣記念美術館『蓬莱山―鶴・亀・松―』
●伊藤郁太郎・監修『中国陶磁の至宝　英国デイビッド・コレクション展』読売新聞大阪本社
●伊藤清司『死者の棲む楽園　古代中国の死生観』角川書店
●稲畑耕一郎、岡村秀典、徐朝龍、馬家郁・監修『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』朝日新聞社・テレビ朝日
●稲畑耕一郎、西江清高・監修『中国古代文明の原像　発掘が語る大地の至宝』上・下、アジア文化交流協会
●A.コットレル・著、日比野丈夫・監訳、田島淳・訳『秦始皇帝』河出書房新社
●上田正昭『古代国家と東アジア』角川書店　上田正昭著作集 2
●大庭脩・編著『木簡　古代からのメッセージ』大修館書店
●大林太良・生田滋『東アジア民族の興亡　漢民族と異民族の四千年』日本経済新聞社
●大貫静夫『東北アジアの考古学』同成社　世界の考古学 9
●尾形勇、平勢隆郎『中華文明の誕生』中央公論社　世界の歴史 2
●越智重明『戦国秦漢史研究』3、中国書店
●何新・著、後藤典夫・訳『神々の起源―中国遠古神話と歴史―』樹花舎
●加藤謙一『匈奴『帝国』』第一書房
●加納喜光『漢字の成立ち辞典』東京堂出版
●樺山紘一ほか編『中華の形成と東方世界』岩波書店　岩波講座　世界歴史 3
●菊竹淳一、吉田宏志・責任編集『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』小学館
●工藤元男『睡虎地秦簡よりみた秦代の国家と社会』創文社　東洋学叢書
●国立歴史民俗博物館『陶磁器の文化史』
●茶道資料館、MOA 美術館『交趾香合―福建省出土遺物と日本の伝世品―』
●徐朝龍『三星堆・中国古代文明の謎』大修館書店　あじあブックス 003
●徐朝龍『長江文明の発見　中国古代の謎に迫る』角川書店　角川選書 290
●關尾史郎『西域文書からみた中国史』山川出版社　世界史リブレット 10
●曽府川寛、谷豊信・責任編集『世界美術大全集　東洋編　第２巻　秦・漢』小学館

●霍巍、李永憲・著、頼富本宏・監修『西西蔵石窟遺跡』集英社
●泉屋博古館『泉屋博古館紀要』14
●泉屋博古館『泉屋博古館紀要』15
●大修館書店『しにか』98-1（特集　中国博物館ガイド　全国 56 館展示案内）
●大修館書店『しにか』98-7（特集　シルクロード再発見—西域学の現在）
●大修館書店『しにか』98-9（特集　渤海国—建国一三〇〇年・甦る「海東の盛国」）
●高浜秀『中国北方系青銅器の研究』基盤研究（B）研究成果報告書
●中国出土資料研究会『中国出土資料研究』第二号、朋友書店
●武光誠、読売新聞調査研究本部『魏志倭人伝と邪馬台国』読売新聞社　読売ブックレット№10
●田中淡・編『中国技術史の研究』京都大学人文科学研究所
●田中東竹『古典の新技法 3　漢碑』二玄社
●玉村霽山・編『中国書道史年表』二玄社
●全浩天『楽浪文化と古代日本』雄山閣出版
●東京国立博物館『漆で描かれた神秘の世界—中国古代漆器展—』トヨタ財団
●東京国立博物館『吉祥—中国美術にこめられた意味』
●東京国立博物館『東洋美術一五〇選』
●東京国立博物館『中国の封泥』二玄社
●東京国立博物館、NHK、NHK プロモーション・編集『宮廷の栄華　唐の女帝・則天武后とその時代展』NHK、NHK プロモーション
●東京国立文化財研究所・編『日本東洋古美術文献目録昭和 11～40 年　定期刊行物所蔵附著者名索引』中央公論美術出版社
●東京大学馬王堆帛書研究会『馬王堆漢墓出土老子乙本巻前古佚書経法』四度篇訳注、東京大学馬王堆帛書研究会
●東京大学馬王堆帛書研究会『馬王堆漢墓出土帛書周易』二三子問篇訳注（二）、東京大学馬王堆帛書研究会
●富田哲雄『中国の陶磁 2　陶俑』平凡社
●冨谷至『秦漢刑罰制度の研究』同朋舎出版　東洋史研究叢刊之 55
●西村康彦・監修『中国南京博物院所蔵—甦る南遷文物』ＴＢＳ
●日本中国考古学会『日本中国考古学会会報』8、日本中国考古学会
●樋口隆康・監修『故宮博物院 12　青銅器』日本放送出版協会
●長谷部楽爾・監修『故宮博物院 7　明の陶磁』日本放送出版協会
●樋口隆康・監修『中国河南省八千年の至宝　大黄河文明展』日本経済新聞社
●平勢隆郎『左傳の史料批判的研究』汲古書院
●堀敏一『東アジアのなかの古代日本』研文出版　研文選書 75
●堀内正範・編著『洛陽発『中原歴史文物』案内』新評論
●水上静夫『漢字文化の源流を探る』大修館書店
●水上静夫『干支の漢字学』大修館書店　あじあブックス 007
●水上静夫『漢字誕生』雄山閣出版
●蓑豊・編著『中国の陶磁 5』平凡社
●松村一徳・編著『封じる』篆刻美術館　平成 10 年度企画展
●明治大学東洋史談話会『明大アジア史論集』第 2 号、明治大学東洋史談話会
●明治大学東洋史談話会『明大アジア史論集』第 3 号（中国古代史特集）明治大学東洋史談話会
●山口県立萩美術館、浦上記念館『シリーズ山東文物 1　神秘の王国【　国王墓】展』
●吉本道雅『春秋戦国交代期の政治社会史的研究』基盤研究（C）（2）研究成果報告書

●劉永華・著、春日井明・監訳『中国古代甲冑図鑑』アスペクト
●ルイ＝ジャン・カルヴェ・著、矢島文夫・監訳、会津洋、前島和也・訳『文字の世界史』河出書房新社
●和歌山県立博物館『中国・山東省の至宝』

〈論文・翻訳・評論など〉
●相川佳予子「漢代の染織」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.271-280
●秋山進午、山本忠尚、大貫静夫、宮本一夫、廣川　守、小田木治太郎「内蒙古“岱海”における発掘調査—平成 8 年度国際学術研究概要—」『日本中国考古学会会報』8、P.51-54
●浅原達郎「牛不相当穀廿石」『泉屋博古館紀要』15、P.47-59
●穴沢　光「公開された幻の中朝合同東北考古調査」(書評 : 社会科学院考古研究所編著『双子与崗子』、同『六頂山与渤海鎮』)『東方』212、P.32-35
●阿部幸信「漢代における印綬賜与に関する一考察」『史学雑誌』107-10、P.1-26
●荒金信治「卜甲骨制作方法における実証—甲骨を覆う脂ぬきについて—」『別府大学紀要』39、P.11-32
●荒川正晴「トゥルファン文書を読み解く—文書に見える冥界の姿」『しにか』98-7、P.58-63
●荒木日呂子「中国新石器時代の卜骨とその社会的意義について」『東洋大学中国哲学文学科紀要』6、P.95-130
●新井光風「全貌が公になった新出土の七三〇簡」(書評 : 荊門市博物館編『郭店楚墓竹簡』)『東方』214、P.29-32
●安也致、徐海寧「古代亀卜文化の文字における表現について　甲骨文字『船』形偏旁の意味の検討」『駒沢史学』52、P.87-98
●飯島武次「紹介『中国古代文明の原像』上・下巻」(書評 : 稲畑耕一郎・西江清高『中国古代文明の原像』)『東方』212、P.24-27
●飯島武次「濬県辛村の西周大型墓について」『駒沢史学』52、P.99-109
●池田温「北魏拓跋烏雷（文成帝）『皇帝南巡之頌』碑」『歴史と地理』513、P.33-34、山川出版社
●池田温「敦煌郡龍勒郷天宝六載籍の一断簡」『創価大学人文論集』10、P.251-260
●池田温「盛唐物価資料をめぐって」『シルクロード研究』1、P.69-90、創価大学
●池田知久「出土資料による新たな中国史学の試み　工藤元男『睡虎地秦簡よりみた秦代の国家と社会』を読んで」（書評）『創文』403、P.24-28
●池田末利「試談先周文化—諸文化の交錯」『日本中国学会創立五十年記念論文集』
●石岡浩「秦時代の刑罰減免をめぐって　睡虎地秦簡に見える『居官府』の分析から」『史滴』20、P.2-21
●石黒ひさ子「劉彬徽・著『楚系青銅器研究』」（書評）『明大アジア史論集』3、P.69-78
●石松日奈子「陝西省耀県薬王山博物館所蔵「魏文朗造像碑」の年代について—北魏始光元年銘の再検討—」『仏教芸術』240、P.13-32
●伊藤郁太郎「高麗青磁の特質」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.329-334
●稲畑耕一郎「飯島武次著『中国周文化考古学研究』」（書評）『季刊考古学』64、P.93
●稲畑耕一郎、岡村秀典、徐朝龍「三星堆—驚異の仮面王国」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.9-11
●稲畑耕一郎「三星堆における仮面の文化」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.224-229
●井上豪「酒泉・文殊山石窟後山区千仏洞の西域様式壁画について」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』43-3、P.117-129

●井ノ口哲也「『經』とその解釈—戦国秦漢期における形成過程—」『中国出土資料研究』2、P.51-73
●井ノ口哲也「中国出土資料研究会の三年間」『中国出土資料研究』2、P.306-315
●今井敦「中国陶磁にみられる意味と造形の連環をめぐって」『吉祥—中国美術にこめられた意味』P.18-24
●今村啓爾「西南中国の先史・古代美術」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.305-315
●于保田「古代中国における『俑』の解釈について」『東瀛求索』9、P.149-165
●上田岳彦「洛陽焼溝漢墓の形態と変遷」『明大アジア史論集』3、P.54-68
●鵜飼昌男「大庭脩先生の古稀をお祝いする二冊の本」『中国出土資料研究』2、P.256-259
●エフゲニア・I・ゲルマン・著、金沢陽・訳「沿海州における遺跡出土の中世施釉陶器と磁器」『出光美術館　館報』105、P.4-36
●江村治樹「戦国時代における都市の発達と秦漢官僚制の形成」『中華の形成と東方世界』P.179-204
●江村治樹「春秋・戦国・秦漢時代の都市の規模と分布」『名古屋大学文学部研究論集 131 史学 44』、P.79-121
●王柯「万里の長城の内外—成立期の中華帝国と夷狄—」『中国 21』3、風媒社、P.121-142
●王毅、廬丁、江章華、蒋成・著、小澤正人・訳「中国長江文明起源研究の新成果　四川省成都市で発見された先史時代城址群」『東方学』95、P.138-147
●王世和、張宏彦、傅勇、厳軍壷、周傑・著、高島敏夫・訳「陝西省周原案板遺迹の胞子花粉分析」『西伯』4、P.50-79
●汪勃「西周農業について」『網干善教先生古稀記念考古学論集』関西大学考古学研究室、P.1319-1336
●大川裕子「古代巴の歴史—巴人の分布に関する一考察—」『史艸』39、P.24-48
●大津透「唐西州高昌県粟出挙帳断簡について」『古代中世史料学』上、P.477-511、吉川弘文館
●大櫛敦弘「藤田勝久著『史記戦国資料の研究』」（書評）『中国出土資料研究』2、P.240-247
●大西克也「『　』『也』の交替—六国統一前後に於ける書面言語の一側面—」『中国出土資料研究』2、P.4-24
●大橋修「大庭脩編著『木簡　古代からのメッセージ』」（書評）『漢文教室』184、大修館書店、P.38
●大庭脩「私の中国史の時代区分」『史泉』87、P.1-19
●大庭脩「中国木簡の特殊性」『木簡』P.19-50
●大庭脩「フィールドの木簡」『木簡』P.51-70
●大庭脩「墓葬の木簡」『木簡』P.71-90
●大庭脩「中国木簡研究の今後」『木簡』P.181-186
●尾形勇「諸侯王たちの世界　発掘された前漢の王墓」『立正史学』84、P.1-8
●岡村秀典「農耕社会と文明の形成」『中華の形成と東方世界』P.77-102
●岡村秀典「蟠　紋鏡の文化史」『泉屋博古館紀要』14、P.7-19
●岡村秀典「三星堆文化の系譜」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.200-207
●岡村秀典「魏・西晋王朝と邪馬台国」『中国河南省八千年の至宝　大黄河文明展』P.136-137
●岡村秀典「秦漢帝国の対外交渉とその美術」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.323-328
●岡安勇「待望の歴史地理学書」（書評：李并成『河西走廊歴史地理』）『東方』203、P.29-31
●岡安勇「中国古代における方位観試論—とくに東面について—」『総合文化』1、P.35-55、総合文化協会

●小澤正人「成都市文物工作隊・早稲田大学長江流域文化調査隊による 1997 年度共同調査概要」『日本中国考古学会会報』8、P.65-66
●落合淳思「甲骨文・金文および殷王世系の十干称謂」『立命館文学』555、P.1-35
●會谷佳光「『馬王堆漢墓帛書老子甲本巻後古佚書明君篇』訳注」『中国出土資料研究』2、P.176-228
●角谷常子「秦漢時代の女性労働—主に衣料の生産からみた—」『古代文化』50-2、P.1-16
●何努・著、大島誠二・訳「巴文化の起源を探る」『日中文化研究』12、勉誠社、P.147-159
●何星亮「河南濮陽仰韶蚌殻龍探析」（中国文）『中国出土資料研究』2、P.276-305
●加藤直子「ひらかれた漢墓　孝廉と『孝子』たちの戦略」『美術史研究』35、P.67-86
●金沢陽「’98 龍泉窯青瓷国際研討会」『出光美術館　館報』105、P.56-68
●亀井明徳「北朝—初唐期青瓷罐・瓶の編年」『専修人文論集』63、P.21-52
●亀田修一「瓦　」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.351-355
●河上邦彦「僖山漢墓の金鏤玉衣」『中国河南省八千年の至宝　大黄河文明展』P.135
●顔娟英「北斉禅観窟的図像考—従小南海石窟到響堂山石窟」『東方学報』京都 70、P.375-440
●黄川田修「龍山文化以後の山東—岳石文化とその終末—」『明大アジア史論集』2、P.1-51
●菊竹淳一「高句麗古墳壁画—地下の画廊—」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.53-70
●来村多加史「中国皇帝陵の地相分析」『網干善教先生古稀記念考古学論集』関西大学考古学研究室、P.1363-1388
●木村秀海「周師」『関西学院史学』25、P.23-42
●工藤元男「秦漢研究から浮上した禹の行方をめぐって」『創文』401、P.14-16
●工藤元男「禹の伝承をめぐる中華世界と周縁」『中華の形成と東方世界』P.103-124
●江介也「北周墓の構造とその型式」『文化史学』54、P.1-21
●古賀登「巴蜀古文化探求」『唐代史研究』1、P.104-107
●小嶋茂稔「秦漢時代出土資料研究の近年の動向に関する覚書　第 9 回日本秦漢史研究会大会に参加して」『歴史学研究』708、P.41-47
●小嶋茂稔「渤海考古学の現状と課題　渤海都城の変遷と水系を考える」『東アジアの古代文化』96、P.118-138
●小嶋芳孝「渤海の芸術」『しにか』98-9、P.54-59
●後藤健「山東省における新石器時代の集落—城址を中心として—」『史観』139、P.61-78
●小林昌二「關尾史郎著『西域文書からみた中国史』」（書評）『新潟史学』40、P.90-91
●近藤喬一「遼寧青銅短剣の起源について」『日本中国考古学会会報』8、P.33-50
●近藤浩之「『馬王堆漢墓帛書易傳』二三子篇の龍」『東方学』96、P.16-29
●近藤浩之「馬王堆漢墓関係論著目録の訂正と追加」『中国出土資料研究』2、P.264-260
●崔大庸「国君の輝かしい宝物—仙人台 6 号墓を中心として」『シリーズ山東文物 1　神秘の王国【　国王墓】展』P.13-18
●崔健「高麗陶磁の性格と展開」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.335-342
●齋木哲朗「長沙馬王堆漢墓出土「帛書五行篇」新解—秦儒との関係を中心として—」『中国出土資料研究』2、P.25-50
●斉藤龍一「中国南北朝時代の敦煌莫高窟における中心柱窟の展開」『成城文芸』162、P.39-77
●斉藤理恵子「敦煌北魏窟の図像構成について」『美術史研究』36、P.21-38
●才原明美「秦の鉄官及び製鉄業—角谷定俊説に関連して—」『明大アジア史論集』3、

P.34-42
●早乙女雅博「先史・古代の工芸」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.105-120
●酒寄雅志「【コラム】渤海国点描　①平城京出土の渤海木簡」『しにか』98-9、P.32-33
●酒寄雅志「【コラム】渤海国点描　③上京竜泉府出土の和同開珎」『しにか』98-9、P.52-53
●佐川英治「堀敏一著『中国古代の家と集落』」『唐代史研究』1、P.62-68
●佐々木高明、松谷暁子、李毘声、阪本寧男「雲南省剣川県海門口遺跡出土の炭化穀粒をめぐって　それはヒエではなく、アワであった」『国立民族学博物館研究報告』22-4、P.803-828
●佐藤利行「瑯耶臨沂の王氏について」『中国学研究論集』1
●佐藤房儀「青銅器『爵』考（前編）」『文学部紀要』33-1、P.32-59、中京大学
●佐原康夫「中国古代の貨幣経済と社会」『中華の形成と東方世界』P.205-226
●佐原康夫「居延漢簡に見える官吏の處罰」『東洋史研究』56-3、P.1-33
●時雨彰「古代中国銅鏡に表現された四神図の系譜」『国学院大学大学院紀要—文学研究科—』29、P.323-344
●清水康二・三船温尚・清水克朗「鏡と范から探る山字文鏡の鋳造方法」『泉屋博古館紀要』14、P.20-32
●清水康二・三船温尚・清水克朗「鏡の熱処理実験—面反りについて（その 1）—」『古代学研究』144、P.41-51
●清水康二・三船温尚「鏡の鋳造実験—踏み返し鏡の諸問題（その 1）—」『研究紀要』4、P.1-25、由良大和古代文化研究協会
●清水政明、LE Thi Lien、桃木至朗「護城山碑文に見る字喃について」『東南アジア研究』36-2、P.149-177
●朱岩石「　城における皇帝園林の機能と意義」『国学院大学大学院紀要—文学研究科—』29、P.345-360
●庄文彬「金魚村における南宋代窖蔵の重要な発見とその初歩的な研究」『封印された南宋陶磁展』P.110-112
●徐朝龍「三星堆文明をめぐる歴史的な背景」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.24-31
●徐朝龍「中国における稲作起源と都市文明発生に関する研究の新動向」『紀要』4、P.127-159、由良大和古代文化研究協会
●申英秀「出土資料より見る中国古代の医学」『研究紀要』16、早稲田大学本庄高等学院
●秦小麗「二里頭文化の地域間交流—山西省西南部の土器動態を中心に—」『古代文化』(上) 50-10、P.17-24（下）50-11、P.20-31
●菅谷文則「「胡人」の墓を発掘する—寧夏固原史氏一族墓」『しにか』98-7、P.64-69
●菅谷文則「中日聯合原州考古隊 95・96 年度発掘調査で考えたこと」『日本中国考古学会会報』8、P.55-63
●杉本憲司「中国古代の都市生活に関する法習慣寸描」『鷹陵史学』24、P.1-20
●鈴木敦「『甲骨文編』における大文字域の現状」『茨城大学人文学部紀要』（コミュニケーション学科論集）3、P.119-139
●鈴木敦「甲骨文『　』字諸字形の分析」『茨城大学人文学部紀要』（コミュニケーション学科論集）4、P.141-163
●鈴木直美「戦国秦の連坐」『明大アジア史論集』3、P.1-18
●鈴木靖民「渤海の国家構造」『しにか』98-9、P.12-22
●瀬川敬也「秦代刑罰の再検討—いわゆる「労役刑」を中心に—」『鷹陵史学』24、P.21-44
●泉屋博古館「山本信夫氏旧蔵鏡資料集成」『泉屋博古館紀要』14、P.61-95

●　開遜「新干大墓出土青銅礼器　その時代と器種構成」『日中文化研究』12、勉誠社、P.127-146
●蘇哲「古代中国の山岳崇拝」『季刊考古学』63、P.69-74
●蘇林「中国西漢時代に漢人が匈奴社会経済の発展に及ぼした影響とその背景」『北見大学論集』38
●曽中懋・著、岡村秀典・訳「広漢三星堆一・二号坑出土青銅器の成分と鋳造技術」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.208-214
●宋純卓「ピョンヤン市楽浪区域出土の文物」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.356-360
●曽府川寛「秦漢美術の性格」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.9-20
●曽府川寛「秦始皇帝陵兵馬俑と銅馬車」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.69-84
●曽府川寛「漢代墳墓の彫塑」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.85-97
●曽府川寛「漢代墳墓絵画に描かれた世界」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.137-148
●高島敏夫「西周〈昭穆期〉の位相〔話体版〕（完）—西周王朝形成過程論序説—」『西伯』4、P.1-49、5、P.1-36
●高津純也「藤田勝久著『史記戦国史料の研究』」（書評）『史学雑誌』107-8、P.82-86
●鷹取祐司「漢代の裁判文書「爰書」—戍卒による売買を手掛かりに—」『史林』80-6、P.1-35
●高橋学而「遼寧省本渓市出土金総領提控所印について　出土官印より見た金末東北の混乱」『古代文化』50-4、P.31-44
●高橋隆博「高麗の螺鈿」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.237-244
●高浜秀「中国古代の吉祥文」『吉祥—中国美術にこめられた意味』P.12-17
●高村武幸「九店楚簡日書の性格について—睡虎地日書・放馬灘日書との比較を通じて—」『明大アジア史論集』3、P.1-23
●高村武幸「中国西北部烽燧遺址出土漢簡に見える占術・暦注関係簡牘の集成と注釈」『文学研究論集　文学・史学・地理学』8、P.283-298、明治大学大学院文学研究科
●高柳等「故宮秘宝発見」『中国南京博物院所蔵—甦る南遷文物』P.129-131
●田中淡「中国の都城と日本の都城—軍事の要砦から市場の街へ：偃師、鄭州から洛陽、開封まで—」『中国河南省八千年の至宝　大黄河文明展』P.134
●田中淡「秦漢時代の建築」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.98-104
●田辺昭三「ニヤ（尼雅）遺跡発掘記—西域南道の古代オアシス都市」『しにか』98-7、P.12-20
●谷豊信「漆で描かれた神秘の世界—湖北省出土品を中心にみた中国古代の漆器—」『漆で描かれた神秘の世界—中国古代漆器展—』P.183-205
●谷豊信「秦漢時代の金属工芸」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.233-244
●谷豊信「秦漢時代の陶磁器」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.256-263
●谷一尚「中国出土のビザンツ金貨」『オリエント』40-2、P.124-137
●谷一尚「中国の古代ガラス」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.250-255
●谷中信一「新出土資料の発見と疑古主義の行方」『中国出土資料研究』2、P.150-166
●谷野典之「中国神話」『しにか』98-3、P.124-125
●玉田芳英・次山淳「漢長安城桂宮 2 号殿の調査」『奈良国立文化財研究所年報』1998-Ⅰ、P.4-6
●田村晃一「渤海の遺跡が語るもの」『しにか』98-9、P.44-51
●千原靖弘「秦上郡の性格と労役刑制度の発展」『東海史学』32

●中国考古学研究会（京都）「内蒙古“岱海”における発掘調査—平成 9 年度国際学術研究簡報—」『日本中国考古学会会報』8、P.67
●趙輝「中国日本考古学の交錯点」『歴博』87、P.26-27
●趙殿増・著、稲畑耕一郎・訳「三星堆文明における原始宗教の枠組みの特徴」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.215-223
●張光直・著、高島敏夫・訳「商周青銅器から文明と国家の起源を論ず」『西伯』5、P.36-66
●朝鮮民主主義人民共和国社会科学院考古学研究所中世考古学研究室「渤海国と新たに発掘された遺跡の性格について」『東アジア研究』22、P.3-27、大阪経済法科大学アジア研究所
●萇嵐「考古学から見た日中文化交流に関する二、三の考察」『駒沢史学』50、P.130-145
●陳松長「馬王堆與馬王堆学」（中国文）『中国出土資料研究』2、P.167-175
●陳中行「グリオキサール法による曽公乙墓および包山楚墓彩漆主棺の脱水、強化、寸法安定化」『漆で描かれた神秘の世界—中国古代漆器展—』P.206-213
●陳徳安・著、徐朝龍・訳「三星堆遺跡と三星堆文明」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.15-23
●陳波「日本における中国古印の研究について」『史泉』87、P.20-35
●陳力「漢唐時代の都市計画における「中軸線」について」『阪南論集』（人文・自然科学編）34-1
●塚田誠之「中国大陸古文化研究会編『中国大陸古文化研究』」（書評）『民博通信』79、P.52-56
●鶴間和幸「中華の形成と東方世界」『中華の形成と東方世界』P.3-74
●鶴間和幸「中華の形成と東方世界」『学習院史学』36、P.156-166
●程喜霖「論唐代関津與過所」『唐代史研究』1、P.27-41
●程喜霖「吐魯番出土文書與歴史研究」『明大アジア史論集』2、P.52-68
●出川哲朗「デイヴィッド・コレクションと官窯の芸術」『中国陶磁の至宝　英国デイビッド・コレクション展』P.129-141
●出川哲朗「遂寧窖蔵出土の龍泉窯青磁と新安沖沈船及び日本伝世品との比較」『封印された南宋陶磁展』P.122-126
●土肥義和「唐・北宋の間、敦煌の杜家親情社追補社條（Ｓ.8160R,V）について」『唐代史研究』1、P.3-26
●冨永樹之「出土品に見る景徳鎮青花の底裏銘」『青山考古』15、P.35-65
●冨谷至「二一世紀の秦漢史研究—簡牘資料—」『中華の形成と東方世界』P.251-275
●冨谷至「睡虎地秦簡研究の勝利者」（書評：工藤元男『睡虎地秦簡よりみた秦代の国家と社会』）『東方』212、P.28-31
●冨谷至「秦漢の書」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.149-156
●豊田久「成周王朝の君主とその位相　豊かさと安寧」『比較歴史学大系 1　王権のコスモロジー』弘文堂、P.148-184
●豊田裕章「中国都城制に関する一考察　『宮』・『城』・『郭』という言葉を中心に」『網干善教先生古稀記念考古学論集』関西大学考古学研究室、P.1389-1403
●長澤和俊「車師前国の謎に挑む—交河溝西墓地発掘の成果」『しにか』98-7、P.21-29
●永島暉臣慎「高句麗古墳の構造と壁画」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.71-76
●中野照男「敦煌学は、いま—美術史研究の立場から」『しにか』98-7、P.50-57
●中野徹「唐時代の文物と文化—写実精神の所産—」『宮廷の栄華　唐の女帝・則天武后とその時代展』P.185-194
●中野政樹「高麗鏡」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』

P.348-350
●永田英正「簡牘研究で思うこと」『中国出土資料研究』2、P.1-3
●難波純子「華中型青銅器の発達」『日本中国考古学会会報』8、P.1-32
●西川利文「尹湾漢墓漢牘三・四号木牘について—その復元を中心として—」『鷹陵史学』24、P.45-82
●西村康彦「清宮文物の波乱の旅路」『中国南京博物院所蔵—甦る南遷文物』P.17-24
●量博満「渦頭状Ｖ字形文について」『上智史学』42、P.13-40
●橋本高勝「中国古代の学問　学問の分野と名称」『歴史と文化』P.41-58
●蓮池利隆・市川良文「龍谷大学図書館蔵のカローシュティー木簡について」『東洋史苑』50・51 合併号、龍谷大学東洋史研究会、P.1-39
●長谷部楽爾「赤峰の旅」『出光美術館　館報』105、P.37-55
●林俊雄「草原遊牧文明論」『中華の形成と東方世界』P.125-149
●林俊雄「天山山中の新発見—天山は昔も今も遊牧民の天国」『しにか』98-7、P.30-35
●林裕巳「三角縁神獣鏡の銘文　銘文一覧と若干の考察」『古代』105、P.49-74
●林巳奈夫「殷、西周時代の威嚇的な図柄」『史林』81-6、P.141-173
●林巳奈夫「漢代画像石の神話的樹木について」『泉屋博古館紀要』15、P.1-24
●原宗子「生産技術と環境」『中華の形成と東方世界』P.277-302
●樋口隆康「山本信夫氏と梁上椿氏」『泉屋博古館紀要』14、P.1
●平勢隆郎「殷周時代の王と諸侯」『中華の形成と東方世界』P.153-178
●廣川守「春秋戦国時代の透彫二重体鏡について」『泉屋博古館紀要』14、P.33-60
●廣川守「秦・漢の器形と名称　付：鏡の部分名称」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.410-411
●平尾良光、鈴木浩子、早川泰弘、佐々木祐二「泉屋博古館が所蔵する中国青銅器の鉛同位体比」『泉屋博古館紀要』15、P.25-46
●福田哲之「吐魯番出土『急就篇』古注本考　北魏における『急就篇』の受容」『東方学』96、P.45-58
●福永伸哉「華北東部地域の三国時代銅鏡」『東アジアの古代文化』97、P.114-123
●藤田勝久「漢代郡県制と水利開発」『中華の形成と東方世界』P.227-249
●藤田勝久「包山楚簡研究の新段階—陳偉著『包山楚簡初探』—」（書評）『中国出土資料研究』2、P.229-239
●文明大「三国・統一新羅と中国の美術—彫刻に見るその交流」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.343-347
●宝木範義「三星堆文明と現代造形」『三星堆　中国 5000 年の謎・驚異の仮面王国』P.230-232
●前川捷三「中国古代の巫（二）」『茨城大学教育学部紀要　人文・社会科学・芸術』47
●町田章「秦漢時代の漆器」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.264-270
●松井太「カラホト出土蒙漢合璧税糧納入簿断簡」『待兼山論叢　史学篇』31、P.25-49
●松崎つね子「隠官と文帝の肉刑廃止」『明大アジア史論集』3、P.79-82
●松丸道雄「古文字“解読”の方法—甲骨文字はなぜ読めたのか」『しにか』98-5、P.19-25
●三船温尚・清水克朗・小堀孝之・砺波浩二「三星堆　縦目仮面の復元鋳造」『高岡短期大学紀要』12、P.51-72
●湊信幸「序説」『吉祥—中国美術にこめられた意味』P.6-11
●宮島一彦「キトラ古墳天文図と東アジアの天文学」『東アジアの古代文化』97、P.58-69
●宮田清子「秦瓦当における『雲紋』」『紀尾井史学』18、P.27-38
●宮宅潔「秦漢時代の裁判制度—張家山漢簡《奏　書》より見た」『史林』81-2、P.35-68
●宮本一夫「古式遼寧式銅剣の地域性とその社会」『史淵』135、P.125-160

●向井哲夫「竹簡『文子』について」『中国出土資料研究』2、P.114-143
●村上陽子「穀物の良日・忌日」『明大アジア史論集』3、P.19-33
●森達也「遂寧窖蔵出土陶磁の年代について」『封印された南宋陶磁展』P.127-132
●森田克行「青龍三年鏡とその伴侶　安溝宮山古墳出土鏡をめぐって」『古代』105、P.101-113
●任相宏「周代　国と仙人台墓地」『シリーズ山東文物 1　神秘の王国【　国王墓】展』P.6-12
●任相宏「仙人台 6 号墓出土の楽器」『シリーズ山東文物 1　神秘の王国【　国王墓】展』P.19-22
●八木春生「中国南北朝時代における金剛力士像についての一考察」『成城文芸』163、P.85-143
●八波浩一「館蔵漆器考（2）漆奩と器表装飾」『研究紀要』P.37-52、出光美術館
●山近久美子「中国城郭都市の空間的展開」『防衛大学校紀要』（人文科学分冊）76、P.97-114
●山田勝芳「秦漢代手工業の展開　秦漢代工官の変遷から考える」『東洋史研究』56-4、P.1-32
●山田崇仁「春秋楚覇考」『立命館文学』554、P.24-52
●山本忠尚・小田木治太郎・今井晃樹「日本における中国考古学関係文献目録（1997 年）」『日本中国考古学会会報』8、P.70-82
●弓場紀知「四川遂寧発見の南宋窖蔵出土の陶磁器とその意義」『封印された南宋陶磁展』P.113-121
●弓場紀知「幻の官窯—汝官窯」『中国河南省八千年の至宝　大黄河文明展』P.138-139
●楊鴻　「明堂泛論—明堂的考古学的研究—」『東方学報』京都 70、P.1-94
●吉開将人「動向　考古・文物」『中国年鑑 1998』中国研究所、新評論、P.198-199
●吉開将人「「博物館」事情から読む現代中国」（書評：中国博物館学会編『中国博物館誌』）『東方』204、P.24-27
●吉開将人「銅鼓「再編」の時代—一千年紀のベトナム・南中国—」『東洋文化』78、P.199-218
●吉開将人「秦漢の玉器—礼玉のゆくえ」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.245-249
●吉開将人「南越王の文化世界—広州南越王墓」『世界美術大全集　東洋編　第 2 巻　秦・漢』P.316-322
●吉開将人「印からみた南越世界（前編）—嶺南古璽印考—」『東洋文化研究所紀要』136、P.89-135、東京大学
●吉村昌之「居延甲渠塞における部隧の配置について」『古代文化』50-7、P.1-19
●吉村怜「成都万仏寺址出土仏像と建康仏教—梁中大通元年銘のインド式仏像について—」『仏教芸術』240、P.33-52
●吉本道雅「藤田勝久著『史記戦国史料の研究』」（書評）『東洋史研究』57-3、P.65-80
●吉本道雅「秦趙始祖伝説考」『立命館東洋史学』21、P.1-44
●吉本道雅「孟子小考—戦国中期の国家と社会—」『立命館文学』551、P.109-123
●吉本道雅「史記戦国紀年考」『立命館文学』556、P.1-76
●羅二虎「秦漢時代における中国西南地域の民族」『東南アジア研究』35-3、P.314-345
●羅二虎・著、栗岡由布子・訳「中国陝西省出土銭樹仏像考」『龍谷大学仏教文化研究所紀要』36、P.1-10
●李運富「楚国簡帛文字叢考」（中国語）『中国出土資料研究』2、P.265-275
●李蘭　「統一新羅・高麗の金属工芸」『世界美術大全集　東洋編　第 10 巻　高句麗・百済・新羅・高麗』P.225-236
●劉奇「非凡なる道程、燦爛たる芸術—「中国南京博物院蔵宝展」」『中国南京博物院所蔵—甦る南遷文物』P.14-16

●劉起　・著、飯塚由樹・訳「殷周期の政治認識とその展開」『二松学舎大学人文論叢』60、P.136-157
●劉暁路「従馬王堆三塊簡牘看墓主和長沙王的関係」（中国語）『中国出土資料研究』2、P.144-149
●林華東・著、芳賀繁子・訳「半月形石刃（石包丁）の起源およびその伝播」『東アジアの古代文化』94、P.143-163
●呂静「秦の『詛楚文』についての再検討」『中国出土資料研究』2、P.74-99
●魯文生「山東　歴史の旅」『中国・山東省の至宝』P.6-26
●ローズマリー・E・スコット「パーシヴァル・デイヴィッド・コレクションの中国陶磁」『中国陶磁の至宝　英国デイビッド・コレクション展』P.114-128
●早稲田大学秦簡研究会「雲夢睡虎地秦墓竹簡『法律答問』訳注初稿（1）」『史滴』20、P.18-53
●渡辺芳郎「華中・華南地方における新石器～漢代の土器・陶磁器焼成窯の構造」『貞末堯司先生古稀記念論集　文明の考古学』P.281-306